＊申立時には取り外してください。

預貯金通帳に関する留意点

　１　提出すべき預貯金通帳（写し）

　申立て前２週間以内に記帳した、過去２年分の通帳を提出する。

　「一括」「おまとめ」「合計記帳」がある場合は、取引明細書を提出する。

　給与振込用、クレジットカード利用代金引落用、公共料金引落用など使途にかかわりな

くすべての通帳を出す。

　通帳に、水道光熱費等の記載がない場合は、通帳提出に漏れがある可能性がある。コンビニ等での現金払いの場合は、領収書の写しを別途提出する。

　２　預貯金通帳から読み取れる注意点

　大きな金額や個人名での預け入れ、払戻しがある場合

　　　財産の存在や否認権対象行為の存在が疑われるから、マーカーやメモ書きで通帳に事情を記載し、上申書等で説明する必要あり。特に、個人名の振込みに関しては、それが援助なのか、貸金の返済なのか、貸金なのかなどの説明を要する。

　債権者一覧表の記載もれの可能性

　ア　債権者一覧表に記載のないカード会社等への支払がある場合

　イ　VIEW suicaカードのクレジット機能利用の形跡がある場合

　　　通勤定期のみの機能だと誤解していないか。

　財産目録の記載漏れの可能性

ア　保険会社への入金や引落としがある場合（保険解約返戻金の存在）

イ　ＪＡＦ（一般社団法人日本自動車連盟、JAPAN AUTOMOBILE　Federation）からの引き落としがある場合（車両の存在）

ウ　家賃の引落としの額が賃貸借契約書の額と異なる場合－駐車場料金等が加算されているのでは（車両の存在）

エ　本人名義の口座への（又は、本人名義の口座からの）送金がある場合に、対応する口座の資料がない場合

　収入の記載に漏れがある可能性

　　申立書に記載のない公的扶助とみられる入金がある場合、受給内容や期間、金額を説明する必要がある。

　免責に関する事項の記載漏れ

　ア　ＮＣＫ（日本中央競馬会）からの引落としがある場合（インターネットを利用した馬券の購入）

　イ　「スポーツシンコウ」、「ニホンスポーツシンコウセンター」からの引落としがある場合（ＴＯＴＯ（サッカーくじ）の購入）

　その他

ア　ＭＩＣＳ（全国キャッシュサービス、Multi Integrated Cash Service）とは、民間金融機関の各業態別オンライン提携ネットワークを、中継センターを介して接続するＣＤ／ＡＴＭネットワークの名称である。

イ　ＢＡＮＣＳ（バンクス、Banks Cash Service）とは、都市銀行間を接続するＣＤ／ＡＴＭの相互接続ネットワークの名称である。

ウ　ＡＤとは、自動預金受払機で預金した場合の表示、ＣＤとは、引き出した場合の表示である。

以上

＊申立時には取り外してください。

「破産申立てに至った事情」の具体的記載方法

　　　少なくともカードを使い始めたころからの事情を記載してください。また、負債の発生の原因を、暦年順に具体的な収入の増減及び支出の増減の原因事実と関連させながら説明してください。

　　　手取り給与額の推移の記載は、休職、退職、転職等給与額に大きな変更があるごとにその手取り額を、また、手取り給与と比較して大きな支出の原因となった出来事（離婚、学費、親族への援助、交通事故、保証履行、病気、葬儀、失職、単身赴任、引っ越し等）やそれに関する支出額及び影響を受けた収入減などは落とさず、記載してください。

　　　自動車や不動産等高額な資産を購入し、又は処分した場合には、その財産の具体的な内容、購入額、処分価格、処分時の時価、車種等々を記載してください。

　　　負債の整理をした時は、その内容を記載してください。

　　　なお、別紙で文例を挙げてみましたので参考にしてください。

令和○年○月○日

別紙　**破産申立てに至った事情**

|  |  |
| --- | --- |
| 年　月 | 内　　 容 |
| H27.8 | B社を退職しました（退職金３６５万円[[1]](#footnote-1)）。  なお、息子(当時２３歳)とは、この頃から同居しているが、息子は就職活動がうまくいかず、たまに短期のアルバイトをする以外は無職であり、家計に生活費を入れたことは一度もありません[[2]](#footnote-2)。 |
| H27.9 | 次の職場(Ａ社)への通勤に必要だったので[[3]](#footnote-3)、ローンを組んで自動車(○○社・車種・平成○年式・価格１００万円(中古))[[4]](#footnote-4)を買いました。月々○円ほどの返済でしたが、手取りから十分に支払えると思っていました。 |
| H27.9[[5]](#footnote-5) | Ａ社に勤め始めました（手取り１８万円）。 |
| H27.11 | 長時間の勤務時間の割には給料が安いと思い、Ａ社を退職しました。勤務期間が短かったため退職金は支給されませんでした。 |
| H27.11～  H28.10 | 年金が支給されるまでの間は、蓄えを取り崩して生活していました。  将来の生活に不安があったため、蓄えを取り崩すのは月に１０万円程度にして、生活費として不足する分を月５万円ほど消費者金融のＰ社から借入れして賄うようになりました。しかし、無収入のため、Ｐ社への返済も滞るようになり、同社への返済のために、平成２８年１月ころから、Ａ社、Ｌ社などから借入れを始めました[[6]](#footnote-6)。 |
| H28.10 | 年金が支給開始になりました(月９万７０００円)。しかし、相変わらず生活費は月に５万円ほど不足している上、上記のとおりＰ社、Ａ社、Ｌ社への返済は月に６万円[[7]](#footnote-7)ほどになっていたので、貯金を取り崩しながらまかないました。 |
| H29.2 | 弟の妻が入院することになり、弟から緊急で入院費を貸して欲しいと言われ、２０万円を貯金から貸しました[[8]](#footnote-8)。 |
| H29.8 | 自動車の車検費用（３０万円）を貯金から支出しました[[9]](#footnote-9)。 |
| H29.10 | 弟から２０万円を返済してもらいましたが[[10]](#footnote-10)、この頃、貯金は完全に尽きてしまったため[[11]](#footnote-11)、この２０万円は生活費としてこの月で使い切りました。  この頃から就職活動はしているが、高齢のためか就職先が見つかりませんでした。 |
| H29.11 | 車検はしたものの、維持費を支払うことができないため、自動車は廃車にしました[[12]](#footnote-12)（廃車費用１万円）。 |
| H30.1 | 年金の支給額が１５万円に上がりましたが、従前の借入れの返済があったため、返済のために借入と返済を繰り返しました。この頃の返済額は月に７万円程度でした。 |
| H31.1 | 生活保護の相談に○○市役所に行ったが、息子(但し依然として無職)がいるということで断られてしまいました[[13]](#footnote-13)。 |
| R3.1 | 年金の収入額は１５万円のままでしたが、借入れと返済を繰り返したため、この頃の返済額はついに月に１１万円程度になりました。 |
| R3.2 | もう返済も限界と思い、△△法律事務所の△△弁護士に債務整理を依頼しました。 |
| R3.6 | △△弁護士が体調不良で入院することとなったため、債務整理ができなくなりました[[14]](#footnote-14)。このため、急きょ、○○法律事務所に相談にいったところ、私の収入では債務整理では難しいため、自己破産をするといわれ、破産をすることになりました。 |
| R4.1 | 本件申立て[[15]](#footnote-15) |
|  |  |

　　多額の負債を負った最大の原因（例：友人の債務保証）：　生活費

　　支払不能認識時期：令和３年１月

1. 預金通帳等で確認してください（このケースでも、当初退職金は５０万円と説明されていたものの、通帳と照合した結果、額が大幅に異なっていたことが明らかになりました。）。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 同居の家族がいるのであれば、家計への関与についても説明してください。 [↑](#footnote-ref-2)
3. なお、引っ越しをした場合であれば、資料や報告書の記載と矛盾しないように主張してください。また、引越費用の捻出方法についても説明してください。 [↑](#footnote-ref-3)
4. 過去に自動車を保有していた場合、処分済みであるからといった理由で代理人にも告げない申立人も多いため、注意が必要です。

   　　また、自動車の購入の場合は、上記のように、①車種、②年式、③購入価格、④当時その車を買うことが必要であった理由等はできるだけ記載してください。 [↑](#footnote-ref-4)
5. 就業状況については可能な限り正確に記載してください。年金の記録等をチェックすることによって正確な年月日や社名が分かることもあります。 [↑](#footnote-ref-5)
6. 債権者一覧表の借入れ開始時期と齟齬しないように記載してください。 [↑](#footnote-ref-6)
7. 「自転車操業」といった記載ではなく、大まかでよいので返済額を記載してもらうと債務が増加していく様子がわかりやすく、生活費が足りなくて破産した状況が担当裁判官にも伝わりやすくなります。 [↑](#footnote-ref-7)
8. 通帳をチェックして、送金や比較的多額の出入りがある場合には、申立人に事情を確認してください。 [↑](#footnote-ref-8)
9. 自動車を保有していた場合、車検費用や毎月の維持費等がかかることになります。この点の支出について家計収支表から書き漏らしがないかチェックしてください。 [↑](#footnote-ref-9)
10. 親族とのお金のやり取りは借金ではないと考えている申立人は多いので、金銭の移動が窺われる場合には何があったのかを申立人に確認してください。 [↑](#footnote-ref-10)
11. 数年前に多額の貯金があった場合には何に使ってしまったのか、いつ使い切ってしまったのか等が不明であることが多いため、通帳と照らし合わせて事情をわかりやすく記載してください。 [↑](#footnote-ref-11)
12. 自動車の処理(廃車、譲渡等)については、登録事項証明書等の客観的資料を用いて裏付けをしてください。申立人の代理人への説明と客観的資料が異なったケースも多々あります。 [↑](#footnote-ref-12)
13. 無収入になった時点から何の記載もせずに破産申立てとなっているケースが見受けられます。この間はどうやって生活資金を入手したのか(借入れか、親戚の援助か等)を記載してください。 [↑](#footnote-ref-13)
14. 債務整理を試みて頓挫した場合には、何故債務整理がうまくいかなかったのかの記載もしてください。 [↑](#footnote-ref-14)
15. 弁護士への依頼から申立てまでにかなりの長期間あくようなケースでは、理由の記載もしてください。 [↑](#footnote-ref-15)